

令和2年度第1回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和2年6月26日（金） 午後1時00分～午後3時00分

■開催場所：Web会議（委員）

SDGs・市民協働推進担当執務室（事務局）

■議題：

- （1）市民参加推進フォーラムの令和2年度の取組について
- （2）第3期「京都市市民参加推進計画」の策定について
- （3）「市民意見を聴く場」の開催について

■報告事項：

- （1）新たに設置された附属機関等について
- （2）市民参加に関係する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員13名

（荒木委員，乾委員，内田委員，金田委員，兼松委員，木村委員，篠原委員，
嶋倉委員，菅谷委員，橋本委員，壬生委員，森川委員，森本委員）

■傍聴者：1名

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。
Zoomを用いたWeb会議形式で開催した。

【議事内容】

1 開会

2 委員紹介・座長挨拶

<事務局>

議事に先立ち，皆様に自己紹介をお願いしたい。

（以下，委員及び事務局自己紹介 略）

<内田座長>

事務局から議題と本日の流れについて説明をお願いする。

<事務局>

(議題の説明, 資料確認, 時間配分について説明)

3 議題

議題(1) 市民参加推進フォーラムの令和2年度の取組について

<内田座長>

それでは、早速、議題1「市民参加推進フォーラムの令和2年度の取組について」に入りたいと思う。まず、事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

(資料1「第3期「京都市市民参加推進計画」策定スケジュール」説明)

<木村委員>

10月に市長への提言書を提出した後の活動は何かあるのか。

<事務局>

計画書案やパブコメ案などの途中経過をフォーラムで共有し、検討する。

<金田委員>

ハンドブックの作成は決定していることなのか。

<事務局>

市民にわかりやすく伝える概要版をハンドブックと呼んでいる。内容に関しては、下期のフォーラムで意見をもらいたい。

<菅谷委員>

ハンドブックは誰に配布するのか。

<事務局>

冊子なので、市民全員への配布は難しい。ホームページにも掲載する予定である。配布ターゲットも含めて、下期フォーラムで意見をもらいたい。

<菅谷委員>

行政から多様な配布物を預かるが、市民に読んでもらうのは難しい。内容量も多いと思うので、読んでもらえるような工夫は大事だと思う。

<橋本委員>

ハンドブックの分量はどの程度なのか。

<事務局>

ページ数は大分少ないが、製本したものを想定している。

議題 (2) 第3期「京都市市民参加推進計画」の策定について

<内田座長>

事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

(資料2「第3期「京都市市民参加推進計画」の構成(案)」, 資料3「提言書提出までの議論の進め方(案)」説明)

<内田座長>

資料2の19ページから32ページの具体的施策を, フォーラムと市民意見を聴く場を通して検討していくことになる。18ページはあくまで施策構成案なので, 検討の結果, 施策の数や内容など更新されることが想定される。

<荒木委員>

コロナが市民参加に及ぼす影響について, どこまで掘り下げて議論するのか。不平等や格差などの分断が進んでいる。市民参加においても分断が起きているのではないかと。

<嶋倉委員>

世界文化自由都市宣言と, 京都市基本構想とはどういうものなのか。

<事務局>

世界文化自由都市宣言は, 様々な計画の一番上位に位置づけられているものである。それをもとに, グランドビジョンとして京都市基本構想(25年構想)を策定している。HPでも確認できる。

<森川副座長>

商業地域では店が撤退しており, 厳しい状態である。住宅地も地域活動が止まっているところが多い。活動再開の目処が立っていない。スケジュール的に変化を追い切れないかもしれないが, 今できる範囲でしっかり議論を行い, また, 今後の情勢の変化に柔軟に対応できる形の計画策定にチャレンジすべきである。

<金田委員>

議論の重要性に同意する。福祉ではつながることを大事にしているが、それができない状態である。つながりや連携，協働がまさに問われている。分断をどのように乗り越えていくのか，一定の方向性を描けると良いのではないか。中身が変わるところや，強調すべきところがあると思う。

<橋本委員>

これからのフォーラム，市民意見を聴く場，公募委員サロンなどのあり方も変わってくるぐらいの事態だと思う。

<壬生副座長>

基本計画の視点を本計画の施策に取り入れるとあるが，フォーラムの中でどのように議論していくのか。

<事務局>

策定中の基本計画について情報提供しながら進めたい。基本計画も参加と協働を大事だと認識しており，それを具体化するのが本計画だと思っている。

基本計画の策定と並行して進むので，基本計画の審議会の内容をリアルタイムで情報共有することを想定している。

<内田座長>

資料3において，2つの部会に分けて，提言提出まで議論を進めていくのが事務局案である。部会の分け方や，分けること自体が良いのかなど，ご意見はあるか。

<荒木委員>

コロナと市民参加について議論する部会（関心の高い委員が参加）を設けて，他の部会に情報提供するような形はどうか。

<事務局>

そのような運営も可能である。

<事務局>

コロナに関する部会は良いと思うが，その内容をどのように計画全体に反映するのかを考えておいた方が良い。「市民参加」もしくは「まちづくり活性化」と掛け持ち参加してもらうなど，接点を作った方が良いのではないか。

<金田委員>

全体会議の2回目は、全体会議の後に、部会に分かれて行うのか。そうであれば、2回目の全体会議の中で、コロナの影響について議論し、その後部会の議論に反映させるという方法もあるのではないかと。

<事務局>

全体会議の2回目のイメージは合っている。全体会議の後に部会に分かれて議論を行う進め方が良いのではないかと考えている。

<荒木委員>

コロナ関連の話題は、部会にするまではしなくて良いかなということに納得した。一方で、コロナの話題をできる範囲でも語っておかないと、今後の議論や場の開催にあたってその都度さまざまな手戻りが生じると思う。そこで、提案として、次回の全体会議までに一度で結構なので関心の高い委員有志でオンラインの意見交換会を行い、そこでの議論（対話といったほうが適切かも知れません）の内容も皆さんに共有するという形はいかがか。座長・副座長・事務局で今後の進め方を検討される予定であるので、その中でご検討いただきたいと思う。

<森川副座長>

タイトなスケジュールなので、委員が納得して提言書の提言ができるような工夫が必要である。部会の回数を増やす（参加可能な人のみ）ことや、メーリングリストを使うなどが考えられる。

<事務局>

事務局と座長・副座長で引き取って検討する。

<木村委員>

次の5年先を考える計画である。コロナがどうなるかは読めないところがる。京都ならではの活動という視点もぜひ入れていきたい。

<乾委員>

コミュニケーションを増やすために、Slackなど新しいテクノロジーを導入してはどうか。このような取り組み自体が、新しい市民参加の取り組みになるのではないかとと思う。

<荒木委員>

Slackの活用には賛成である。メールより情報共有の効率が良く、市民参加の推進にも役立つツールだと思う。

議題 (3) 「市民意見を聴く場」の開催について

<内田座長>

それでは、議題 3 「市民意見を聴く場」の開催について」に移りたい。事務局から説明をお願いする。

<事務局>

(資料 4 「市民意見を聴く場」の企画概要 (案) 説明)

<内田座長>

誰に何を聴くのか、何を引き出すのか、ご意見をいただきたい。

<橋本委員>

前回はどのように参加者を集めたのか。今回、多様な市民ということが強調されているが、前回はどのぐらい多様性のある意見を得られたのか。

<事務局>

前回は、委員からの招待はせず、広報での募集のみ行った。提言書案について、市民の方から意見をいただいた。前回は多様性が少なかったのではないかと感じている。そのため、個別の推薦や招待が大事だと考えている。

<事務局>

提言書作成の前段階で、市民の意見を色々と聞きたいと考えている。テーマ案に (ア) と (イ) があるが、どちらかを選択するイメージである。(ア) は、例えば、景観などの具体的なテーマを立てて、そのテーマに関する協働の施策や課題について検討する。(イ) は具体的なテーマを立てずに、市民参加という切り口で協働の施策や課題について検討する。どちらが効果的に議論できるか検討いただきたい。

<乾委員>

今のタイミングで、どちらの進め方にするのかを決めるのが良いということか。

<事務局>

次回のフォーラム会議で、より具体的な進行案を出そうと考えているため、今のタイミングでどちらの進め方が良いか御意見をいただきたい。

<事務局>

昨年度の議論も踏まえて、計画検討の早い段階で、より多くの人意見を聴く方が、課

題解決につながるヒントを得やすくして良いのではないかと考えている。

<乾委員>

京都市未来まちづくり 100 人委員会では、参加委員が関心のあるテーマを出して、そこから議題を設定することで、自分ごとになり参加し易くなった。フォーラムがテーマを設定するのではなく、参加者がテーマを持ち寄ってくれると参加率も高くなり良いのではないか。フォーラムでテーマを決めてしまう方法にならざるを得ないのか。

<事務局>

市民参加や協働に関して参加者を募り、話すテーマを決める方法もある。(ア)と(イ)のどちらの進め方にするかを決めている訳ではない。

<事務局>

フォーラム委員から、参加者を推薦・招待するのはどう思うか。

<乾委員>

市民活動で頑張っている人や困っている人など、委員が推薦・招待するのは良いと思う。

<森川副座長>

京都市の市民参加・協働は、形が整い仕組みができてきたが、中身はまだまだであると思う。そして、協働による課題解決の実践アイデアを検討する(ア)の場合、テーマに関わる京都市の所管部門と市民リーダーが話し合うようなイメージであるとする、参加者にとってもメリットがあるように、事前準備をすることが大事ではないかと思う。結果的に、話を引っ掻きまわされただけとならないように気を付ける必要がある。

(イ)の場合、テーマを設定しないとすると、これまでの参加者と同じような人が参加することになると思う。委員からの推薦や招待、お宝バンクの提案者への声掛けなどしないと、話が深まらないのではないか。参加者は、自分の分野の経験談をしようと思うので、その内容をみんなでも共有できるよう、教訓化する概念まで上位に引き上げるファシリテーション能力が重要になると思う。(ア)と(イ)どちらも上手く進められるのではないかと思う反面、それぞれ課題があると思う。

<篠原委員>

市民意見を聴く場なので、参加者がお客様になり、主体性が育みづらそうである。前回 32 名集まったのが、逆に凄いなと思う。当日に(ア)か(イ)のどちらが良いかを参加者に聴くか、当日にテーマを決めるのも良いと思う。その場合、どのように当日参加していただくのが、一番難しいのではないか。

<乾委員>

コロナの影響がある中で、一同に集める必要はあるのか。各委員が個別に声をかけて、少人数で個別に話を聞いていくやり方もあるのではないか。人を集めて全体で話を聞くことに意義があれば、今回のやり方が良いと思うが、ご意見をお聞きすることが目的であれば、個別に話を聞いていく方法も良いと思う。

<事務局>

事務局と座長・副座長で今後の進め方について検討する。

4 報告事項

報告事項（1）

<事務局>

（資料5「新たに設置された附属機関等に係る協議結果（一覧）」報告）

報告事項（2）

<事務局>

（資料6「市民参加に関係する新しい事業や取組」報告）

<森川副座長>

跡地活用は、地域住民について大きな問題である。地域住民にどこまで公開するか、丁寧に合意形成をするか、難しいところもあると思うが検討していただきたい。

<事務局>

跡地活用にあたっての事業者選定というのは、全体プロセスの一部である。この部分はもちろんであるが、全体プロセスにおける地域住民との丁寧なコミュニケーション・合意形成を考えていきたい。

<内田座長>

以上で本日の議題、報告事項は終了となる。皆さん、どうもありがとうございました。

5 閉会

<事務局>

本日も闊達な御意見、ありがとうございました。これまでも地方創生やSDGsに関連して色々な変革が求められていた。コロナの影響で、問題が顕在化し、変革が加速化していると感じる。どのような変化が起きても、人とのつながりの重要性が変わることはない。これからの5年間の市民協働の施策の基本となる計画について、限られた時間の中ではあるが、引き続き、活発な議論をお願いしたい。

以上